

UFOロボ グレンダイザー

1975年

『UFOロボ グレンダイザー』（ユーフォーロボ グレンダイザー）は、永井豪作・原作の漫画、および1975年（昭和50年）10月5日から1977年（昭和52年）2月27日までフジテレビ系列で毎週日曜日19:00 - 19:30に全74話が放送された、東映動画製作のロボットアニメ。

【概要】

『マジンガーZ』（前々作）や『グレートマジンガー』（前作）と世界観を共有した、マジンガーシリーズの第3作。

本作はマジンガーシリーズあるいは永井豪作品としては異色とされがちである。これは本作の制作背景に起因している部分もある。

前作の終局が見えて新番組を模索し始めた制作サイドは、まず前作同様にマジンガーシリーズの世界観を直接受け継ぐ

『ゴッド・マジンガー』（仮題）という企画を立案し、制作を準備していたが、前作の玩具展開が不調だったことから頓挫してしまう。

そこで、当時の日本に巻き起こっていた「空飛ぶ円盤（UFO）ブーム」に乗ろうという思惑が生まれ、1975年3月に東映まんがまつりの

1作として公開された永井豪原作、東映動画制作のアニメ映画『宇宙円盤大戦争』をパイロットフィルムのように用いたうえで

マジンガーシリーズに合わせた変更を施し、テレビシリーズである本作として作り上げた。それゆえ、本作には『宇宙円盤大戦争』の

リメイク的な側面もある。このような理由により生まれた本作の「UFOロボ」のネーミングと各種の設定には、UFOブームの影響が

顕著に表れている。さらにUFO絡みで、東映巨大ロボットアニメとして初めて本格的に「宇宙人」を敵役に据えたSFアニメ作品である。

悪役のレベルが、それまでの作品で描かれていた「犯罪組織」や「マッドサイエンティスト」、「復活した古代文明」などによる「

世界征服」から、異星人による「地球侵略」へスケールアップすることになり、続く1976年の『大空魔竜ガイキング』や

『超電磁ロボ コン・バトラーV』で、「宇宙からの侵略者」はロボットアニメの悪役として定着した。悪役のみならず、主人公にも

異星人を据えた点も大きな特色である。主人公といえば熱血漢タイプの日本人が定番だった当時、カタカナ名前の「異邦人」が

メインというのは斬新だったうえ、「亡国の王子」として従来になかった大人びているも悲しい過去を持ち影があるという、

複雑かつ新しい主人公像を描き出した。他にも王族・貴族といったブルーブラッドの概念や、主人公デュークの中世の騎士を

思わせる出で立ちなど、ロマンティックな新風を吹き込み、後のロボットアニメの人物描写やドラマの幅を大きく広げる先駆けとなり、

ロボットアニメの大きなターニングポイントを残したと言える。また、前々作と異なり、主人公側に主導的な役割を果たす

女性キャラクターが複数設定されていることは、この種の作品としては珍しい。テレビ本放送中に制作・上映された劇場版で

は前作や『ゲッターロボG』と競演し、子供たちの人気を博した。全74話という長期放映でありながら、平均視聴率は20.9%を

記録（最高視聴率は第21話「決戦！オーロラの輝き」の27.6%。ビデオリサーチ関東地区調べ）。大河ドラマ的な設定とそれを生

かした連続ストーリーは、東映動画と松本零士がタッグを組んだ次作『惑星ロボ ダンガードA』に引き継がれることとなった。

なお、本作は日本以外でも放送されている。本作の主題歌・BGMは、1983年と1988年において日本国外からJASRACに払われる

著作権使用料分配額が最も多い作品として第2回JASRAC賞の「外国使用」と第7回JASRAC賞の「国際賞」を受賞している。

【ストーリー】

ベガ星雲の惑星・フリード星は平和に他の星と共存していたが、宇宙征服を目論む支配者ベガ大王が率いるベガ星連合軍による侵略を

受けて滅亡する。王子デュークはフリード星の守護神「グレンダイザー」が組み込まれた宇宙船スパイザーで脱出。地球に落ち延び、

八ヶ岳近くの地獄谷に不時着したところを宇宙科学研究所の宇門所長に救われ、彼の養子となり“大介”を名乗った。

それから2年後。かつてマジンガーZで地下勢力と戦った兜甲児が小型円盤TFOで研究所を訪れた。大介とも対面するが反りが合わない2人。

その晩、赤い月を見て大介はベガ星連合軍が地球侵略を目論んでいると悟ったが、平穏な生活を望み戦いを拒否する彼はひとり苦悩する。

翌日、飛来したベガ軍の円盤にTFOが攻撃される。甲児の危機を見捨てられず、大介は再び元の名を叫んだ。「デューク・フリード!!」

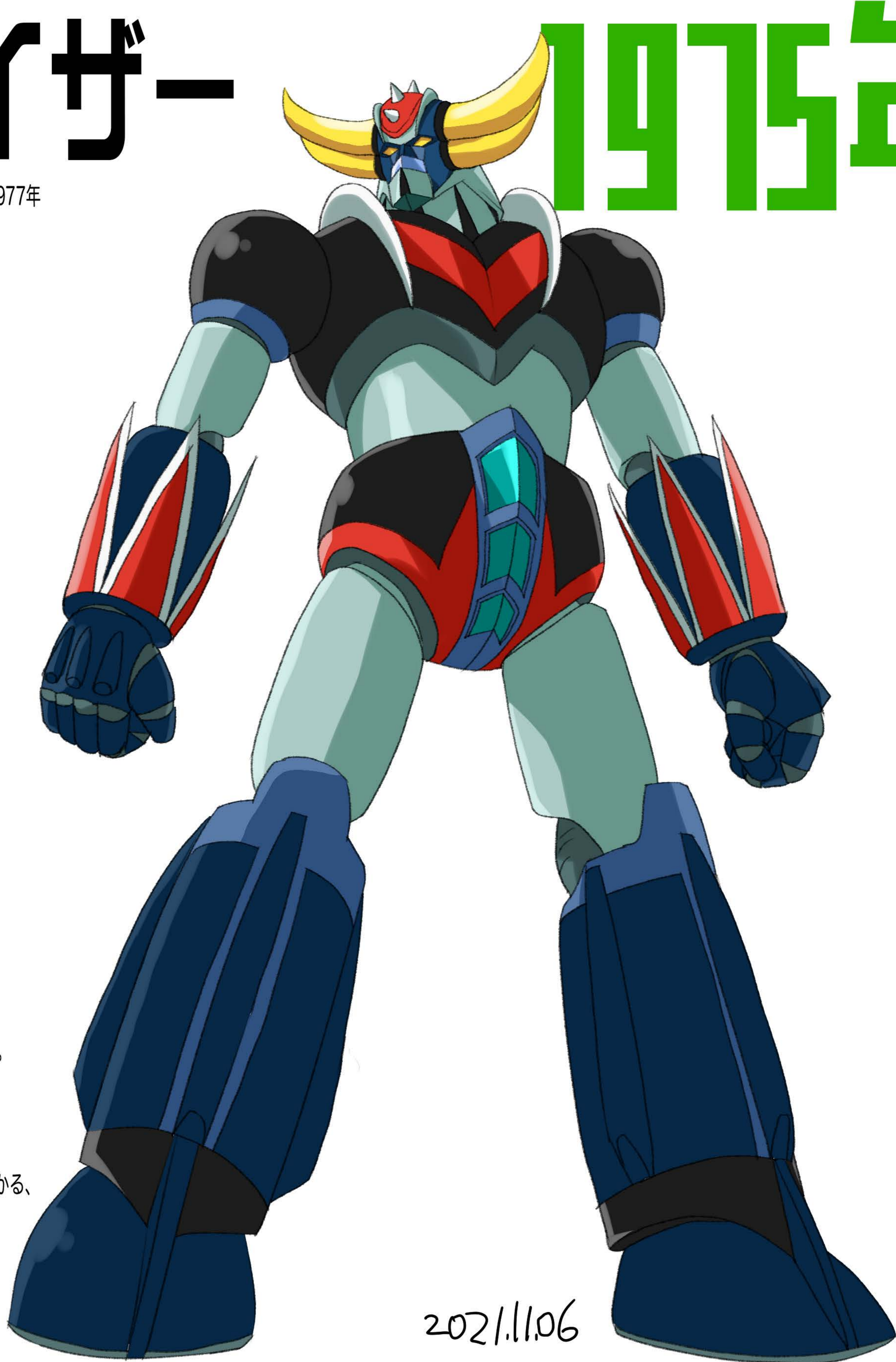
第二の故郷である地球を守るため、グレンダイザーで戦うことを決意したデューク。このことを知ったベガ星連合軍は、月面基地・

スカルムーンから円盤獣を差し向ける。ベガ軍の兵士の中にはそれぞれの事情を抱えた者、さらにデュークの知己までいた。

やがてベガ大王の本隊が地球圏に移動し、強力なベガ獣がグレンダイザーを襲う。しかし友情を結んだ甲児に加え、デュークを慕う牧葉ひかる、

再会した妹のマリアがダイザーチームとして共に戦っていく。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』



2021.11.06

UFOロボ グレンダイザー

【兜 甲児 (かぶと こうじ)】 声 - 石丸博也
かつてマジンガーZに乗ってドクターヘル率いる機械獣軍団との長きにわたる戦いに勝ち抜いた青年。ミケーネ帝国との戦い後、円盤に関する論文を発表するため、NASAへ入所。その後自ら開発した小型円盤TFOに乗って日本に帰国し、宇宙科学研究所に合流する。社交的な性格は相変わらずで宇宙博士たち所員とはすぐに打ち解けたが、大介が養父の研究所を手伝わないことに不信感を抱いていた。当初は異星との貿易を志していたが、侵略者の存在を知り、デュークと共に戦うことを誓い、その良き理解者となっていった。中盤まではTFO、JFOが撃破された後はダブルスパイザーやドリルスパイザーなどでグレンダイザーをサポートする。マリア登場後はドリルスパイザーを譲り、ダブルスパイザーの専属となる。製作者側の配慮により、本作ではロボットに搭乗することは滅多になく、劇場版で一時的にグレートマジンガーを操縦する、TFO大破後にボスポットに搭乗した程度である。また作中を通じ、敵に何度も捕獲される、洗脳によって研究所の位置を吐かされる(第18話)などといった、三枚目的な役回りが目立った。しかし、マリアのエピソード回などデュークの窮地を救ったことも少なからずある。また、デュークが落ち着きと分別のあるキャラクターであったのと対照的に、甲児は血気盛んなキャラクターとしてのポジションを担っていた。デュークより年下のため、彼からは「甲児君」と呼ばれている。一方、それに対して当初はデュークを「大介さん」と呼んでいたが、ストーリー後半では「デューク」と呼ぶようになる。また、初期はひかるを異性として意識するような描写もあったがやがて解消され、後半ではマリアと親しくなる。永井による漫画版では地球に漂着したデュークが初めて出会った地球人であり、一度だけデュークに代わってグレンダイザーを操縦している。なお、フリード王族ではない甲児が操縦できた理由は説明されていない。次回予告編ナレーションも石丸が兜甲児として担当しており、物語を第三者的な立場から語っている。なお、演出の勝田稔男らが後年の壇上で明かしたところによれば、甲児を登場させたことについては彼のファンが怒り、剃刀の刃を送ってきたという。

【グレース・マリア・フリード】 声 - 吉田理保子 / 吉田美保 (スーパーロボット大戦シリーズ)
本作のもう1人のヒロイン。フリード星の王女でデュークの妹。設定年齢は14歳。第49話から登場。お転婆かつ活発な性格の持ち主。バイクや乗馬で甲児と互角に張り合い、ドッキング訓練も初回で成功させるなど優れたセンスを見せる。しかし、当初は自信過剰な面が目立ち、ひかると先陣争いをするなどしていたが、すぐに打ち解けた。フリード星脱出時にデュークとはぐれ、従者と2人きりで地球に逃れた。幼かったためフリード星での記憶があまりなく、従者を「おじいちゃん」と呼び祖父と孫のように暮らしていた。戦闘に巻き込まれて瀕死の重傷を負った従者から真実を聞かされ、グレンダイザーを敵に奪われたと誤解してパイロット(デューク)を狙うが、危ういところで甲児に制止される。デュークが生き別れた兄とわかり、以後はダイザーチーム入りしてドリルスパイザーに乗る。予知能力を持ち、仲間の危機を救ったこともあるが、それゆえに悩む描写も見られる。甲児と親しくなり、やがて恋愛感情に近い想いを寄せるようになる。一部ゲーム等では「甲児がさやかとマリアの二股がけ」と称されることもあるが、本編や映画でさやかとマリアが共演したことはないため、甲児を取り合う描写は存在しない。担当声優の吉田は「前にやっていたメグちゃんに似ているので、マリアをはじめて見た時は驚いた」という旨を述べている。
出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



1975年

<https://majingai.x.fc2.com>

2021.11.07

UFOロボ グレンダイザー

1975年

【ベガ星連合軍】

かつてはフリード星とも友好を結び、共に宇宙の平和を守っていたが恐星大王ベガの登場により宇宙を次々と侵略する恐怖の中心となる。後にベガ星のエネルギーを支えるベガトロン鉱山で爆発事故が起き、放射能汚染により本星が居住不能になったため、宇宙征服に先立って地球への移住を急ぐこととなる。

【恐星大王ベガ】 声 - 八奈見乗児

全宇宙の支配をもくろむベガ星連合軍の総帥にしてベガ星を治める絶対君主。本星からの通信で前線基地スカルムーンに命令していたが、第52話でベガ星が崩壊したためスカルムーンに移動、ここを本拠地にして活動するようになる。娘のルビーナを溺愛しており、彼女の死には深く落胆した。デュークのことは邪魔者と見做していたが、ルビーナの死後は激しい憎悪をぶつけるようになる。最終決戦では背水の陣を敷くべくスカルムーンを自爆させ母艦キング・オブ・ベガとミディフォーの部隊で地球へ攻め込むが、コズモスペシャルおよびグレンダイザーとの激戦の末にキング・オブ・ベガを沈められ、全てのベガ星連合軍と共に滅び去った。

【ガンダル司令】 声 - 富田耕生

地球攻撃軍司令官。第2話から登場。ブラッキーに地球攻撃の作戦を指令する。ブラッキーの死後は攻撃隊長も兼務。顔が割れるように開いて、中から別人格のレディガンダルが出てくる。第28話以降はシャッター式にガンダルの顔とレディガンダルの顔が入れ替わるようになった。外見、性格とも典型的な悪役だが、ズリルジュニアに父の秘めた想いを伝えるなどの一面もある。最終回では反逆した半身・レディガンダルを、自らの死も覚悟の上で粛清。最後までベガ大王への忠節を尽くし、グレンダイザーにマザーシップでの特攻をかけるが及ばず戦死した。

【レディガンダル】 声 - 沢田和子

ガンダルの別人格。当初はガンダルの顔が左右に割れ、小人サイズの女が顔を出していたが、ガンダルが大火傷を負い整形手術を受けた第28話以降は完全に顔が女のものに変わり、それとともに声も若干低めになる。体を共有しているが、本体のガンダルとは反りが合わず、顔を出すことにガンダルがこぼし、これを聞き咎めて「何か言ったか?」「いいや、何も」と遣り取りするシーンがある。最終決戦で自らベガ獣グラグラを駆ってグレンダイザーと対決するが敗退。形勢不利と見て保身のためベガ大王を売り渡そうとするが、ガンダルに粛清される。

【ブラッキー隊長】 声 - 富田耕生 (第1話) / 緒方賢一 (第2話 - 第27話)

第1話 - 第27話に登場。地球攻撃部隊スカルムーン師団の攻撃隊長を務める。作戦は力押しばかりで大した戦果は上げられなかった。基本的にマザーバーンで作戦指揮を執るが、円盤獣を操縦してグレンダイザーと戦ったこともある。第7話では親衛隊のゴーマン大尉に反発し彼を敗戦に追いやった。第27話で宇宙科学研究所を占拠するが、ひかるの陽動に乗せられて失敗。最後は炎上するマザーバーンからガンダルを逃がし、グレンダイザーに特攻を試みるがかなわず爆死した。

【科学長官ズリル】 声 - 田中崇

第28話から登場。ガンダルと同格の協力者として派遣された。円盤獣の開発にも携わる。左目の眼帯にコンピュータが内蔵されており、時折アドバイスを与える。科学長官の肩書きにふさわしく狡猾な頭脳派。武闘派のガンダルとは馬が合わなかった（逆にレディとは相性が良かった）が、始終反目しているわけではなく、共同戦線を張ることも増えていった。息子を想いながらも素直に愛情を表せない、不器用で優しい父親の一面も持つ。第67話で切り札の海底基地を破壊されたが、グレンダイザーを倒すまではスカルムーンへの帰還を拒否。意地を見せたものの第72話でついに力尽き、甲児に射殺された。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

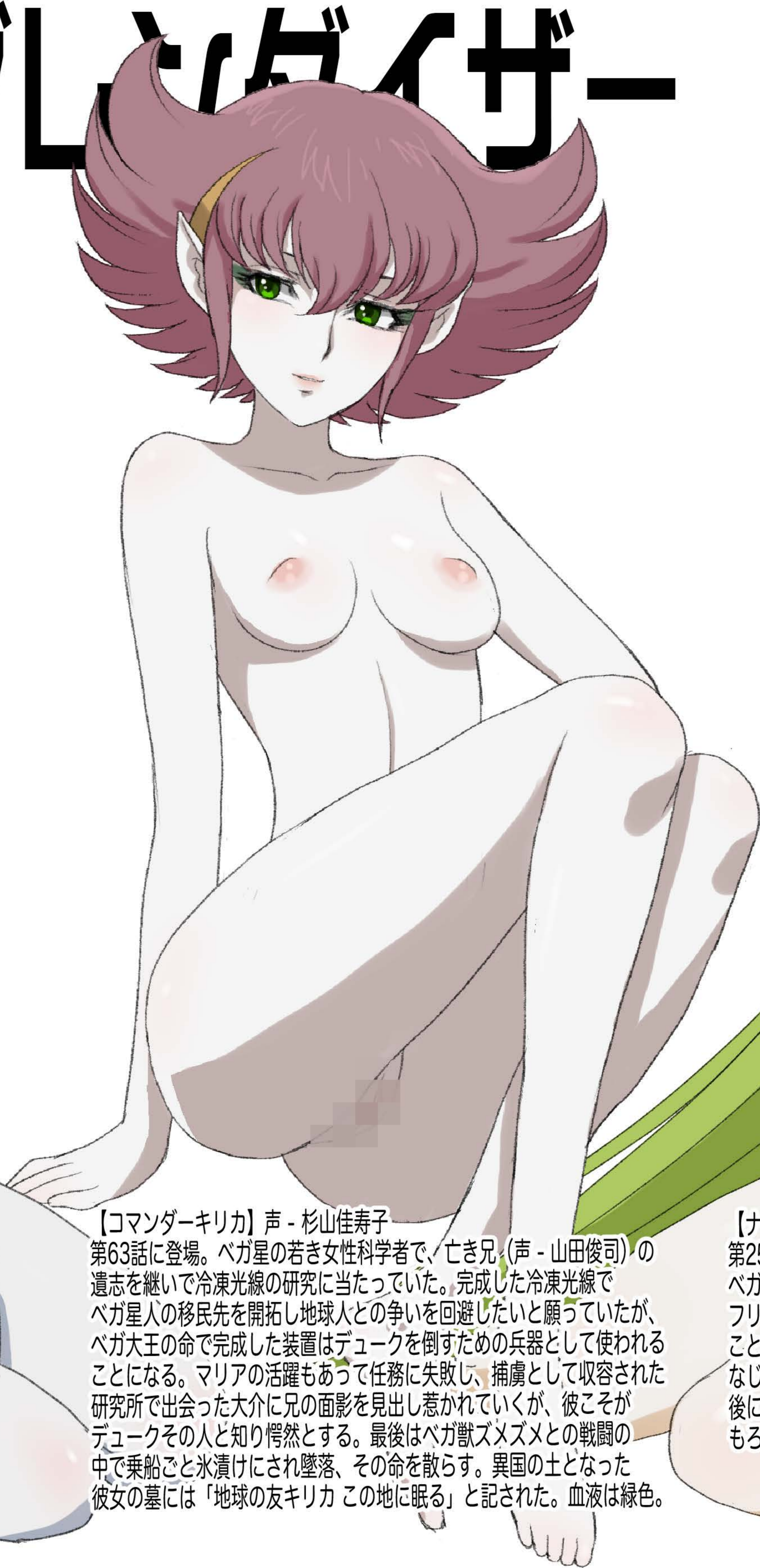


UFOロボ グレンダイザー

1076年



【ルビーナ王女】声 - 小原乃梨子 / 鶴ひろみ (スーパーロボット大戦シリーズ)
第72話に登場。ベガ大王の娘でルビー星を治めていた王女。かつて政略結婚のためフリード王家に送り込まれて以来デュークを深く愛しており、デュークの所在を知り愛機クイーン・パンサー号で来訪した。ベガトロン放射能に異変が起き、フリード星の環境が回復に向かっていることを知るルビーナはそこでデュークと共に暮らしたいと願うが、その思いをズリルの作戦に利用され窮地に陥る。最後はデュークを守るため自ら盾となり、ベガ星軍の基地が月の裏側にあることを伝えて命を散らした。宇宙円盤大戦争に登場したテロンナ王女のリメイクキャラクターにあたる。



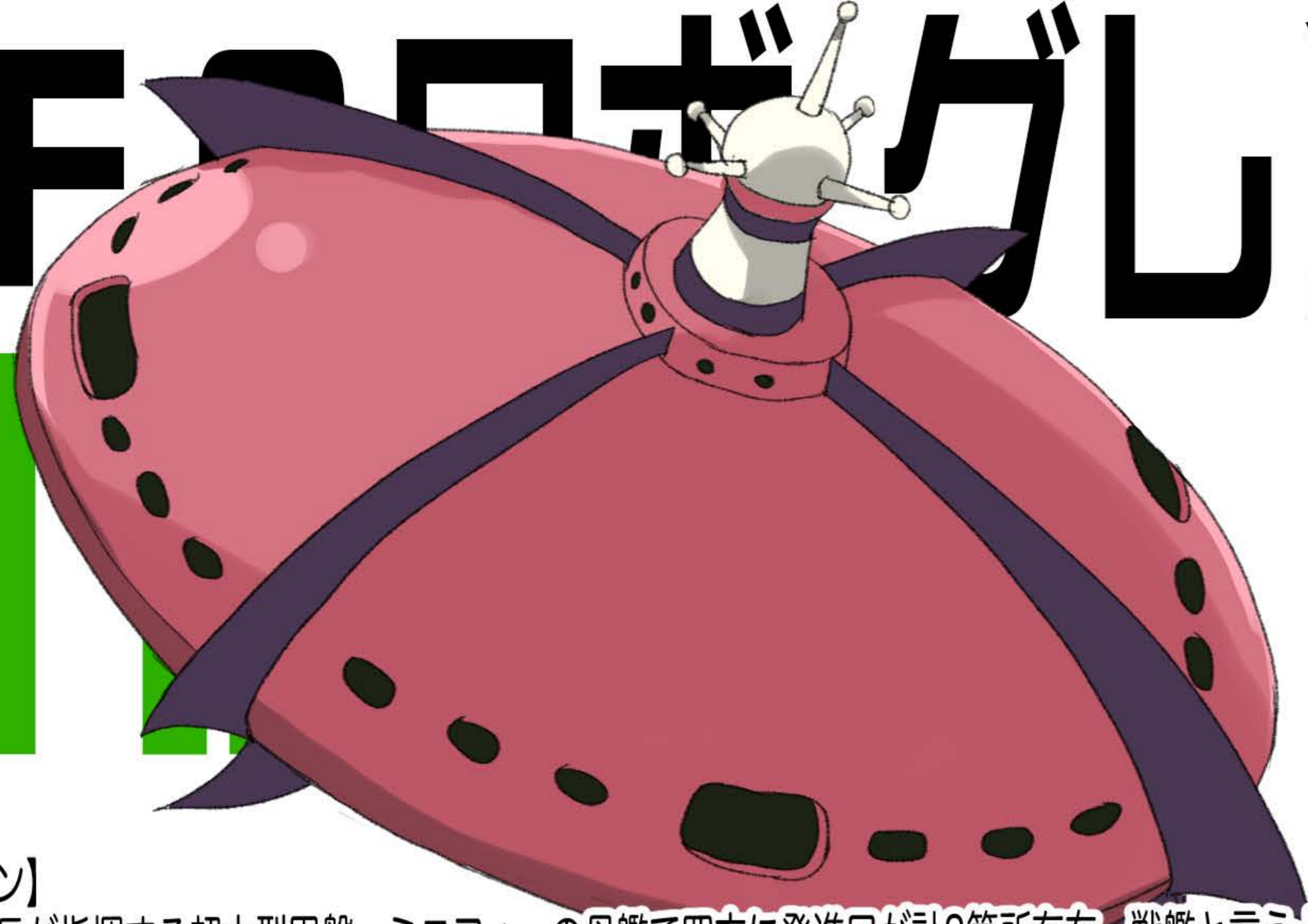
【コマンダーキリカ】声 - 杉山佳寿子
第63話に登場。ベガ星の若き女性科学者で、亡き兄 (声 - 山田俊司) の遺志を継いで冷凍光線の研究に当たっていた。完成した冷凍光線でベガ星人の移民先を開拓し地球人との争いを回避したいと願っていたが、ベガ大王の命で完成した装置はデュークを倒すための兵器として使われることになる。マリアの活躍もあって任務に失敗し、捕虜として収容された研究所で出会った大介に兄の面影を見出し惹かれていくが、彼こそがデュークその人と知り愕然とする。最後はベガ獣ズメズメとの戦闘の中で乗船ごと氷漬けにされ墜落、その命を散らす。異国の土となった彼女の墓には「地球の友キリカ この地に眠る」と記された。血液は緑色。



【ナイーダ・バロン】声 - 杉山佳寿子
第25話に登場。デュークの幼なじみでフリード星の貴族、バロン家の娘。ベガ大王の手で眉間にコントロール装置を埋め込まれデューク抹殺のために地球へ送り込まれる。フリード星人の脳が円盤獣に使われていること、弟のシリウスの脳も円盤獣ギルギルに使われたことを語りデュークを「故郷を見捨てて一人逃げ出した裏切り者」「同胞殺し、弟の敵」などとなじた (その際のデュークは錯乱状態に陥るほどショックを受けていた)。後に装置は除去されたが、デュークを深く傷つけたことを悔やみ、贖罪のためベガ軍の部隊もろとも自爆して果てる。

山手ロボガレンダイザ

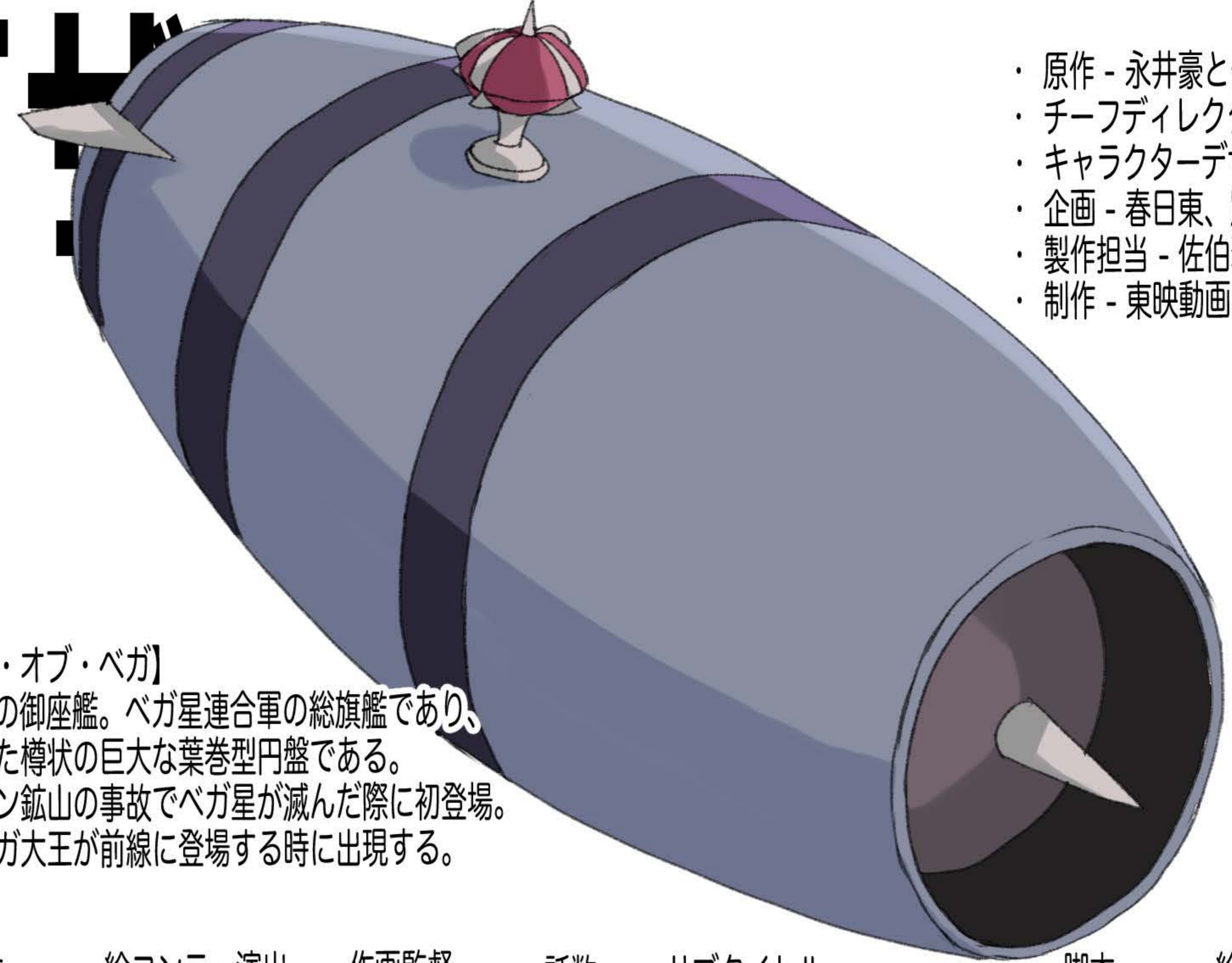
19



【マザーバーン】

ブラッキー隊長が指揮する超大型円盤。ミニフォーの母艦で四方に発進口が計8箇所存在。戦艦と言うより空母なので艦自体の戦闘力は低く、戦闘指揮艦として使われていた。第7話などを見る限り、側面を開いて円場獣を出撃させるのが可能な模様。27話でグレンダイザーに体当たりを仕掛けるが、反撃を受け失われる。塗装はピンク系の派手な色合いである。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



【キング・オブ・ベガ】

ベガ大王の御座艦。ベガ星連合軍の総旗艦であり、灰色をした樽状の巨大な葉巻型円盤である。ベガトロン鉱山の事故でベガ星が減った際に初登場。以降、ベガ大王が前線に登場する時に出現する。

- ・ 原作 - 永井豪とダイナミックプロ
- ・ チーフディレクター - 勝間田具治
- ・ キャラクターデザイン - 小松原一男、荒木伸吾
- ・ 企画 - 春日東、別所孝治、勝田稔男
- ・ 製作担当 - 佐伯雅久→宮崎一哉
- ・ 制作 - 東映動画、旭通信社

話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ・演出	作画監督	話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ・演出	作画監督	話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ・演出	作画監督
第1話	兜甲児とデュークフリード	上原正三	勝間田具治	小松原一男	第26話	スカルムーン総出撃!	上原正三	山口秀憲	森利夫	第50話	暗殺!! 兜甲児を消せ	田村多津夫	大谷恒清	荒木伸吾
第2話	ああ! わが大地みどりなりき	上原正三	小湊洋市	森下圭介	第27話	猛反撃! グレンダイザー	上原正三	山吉康夫	堀川留子	第51話	大接近!! 悪魔の星	馬嶋満	設楽博	森利夫
第3話	危機せまる白樺牧場	藤川桂介	山吉康夫	森利夫	第28話	闇夜に響く 悪魔のベル	田村多津夫	落合正宗	青鉢芳信	第52話	ベガ大王軍団 大移動!	上原正三	小湊洋市	青鉢芳信
第4話	若き血潮は紅に燃ゆ	上原正三	大谷恒清	小泉謙三	第29話	さらば宇宙の友よ!	馬嶋満	設楽博	荒木伸吾	第53話	死闘! キングゴリを倒せ	上原正三	川田武範	森利夫
第5話	炎の愛を夕陽に染めて	藤川桂介	勝間田具治	荒木伸吾	第30話	赤い傷跡のパラード	田村多津夫	川田武範	森利夫	第54話	謎の恐怖! 日本海溝	上原正三	(石黒昇)	菊地城二
第6話	大空を斬る闘魂!!	藤川桂介	山口秀憲	森利夫	第31話	空に花咲け! ボスの友情	藤川桂介	(勝間田具治)	菊池城二			馬嶋満	蕪木登喜司	
第7話	たとえ我が命つきるとも	上原正三	小湊洋市	小松原一男				宮崎一哉		第55話	襲撃! 恐怖の怪気球	馬嶋満	森下孝三	森利夫
第8話	地球の緑はあたたかい	藤川桂介	茂野一清	小泉謙三	第32話	母に向かって撃て!	馬嶋満	大谷恒清	小松原一男	第56話	危機を呼ぶ偽博士!	上原正三	明比正行	荒木伸吾
第9話	許されざる怒りを越えて	藤川桂介	大谷恒清	森下圭介	第33話	必殺!! ミュータントの最後	田村多津夫	川田武範	森利夫	第57話	吼えろ! ぼくの怪獣	上原正三	福島和美	青鉢芳信
第10話	あこがれは星の彼方に	上原正三	山吉康夫	森利夫	第34話	狼の涙は流れ星	上原正三	宮崎一哉	菊池城二	第58話	悪魔にされたグレンダイザー!	田村多津夫	川田武範	森利夫
第11話	黒い太陽の中の悪魔	藤川桂介	勝間田具治	小松原一男	第35話	飛べ! ダブルスぺイザー	馬嶋満	設楽博	荒木伸吾	第59話	ああ! 少年コマンド隊	馬嶋満	(明比正行)	菊池城二
第12話	虹の橋を渡る少女	上原正三	山口秀憲	若林哲弘	第36話	燃える大空の誓い!	田村多津夫	小湊洋市	堀川留子			蕪木登喜司		
第13話	狙われたグレンダイザー	上原正三	茂野一清	小泉謙三	第37話	翼に命をかける!	馬嶋満	松浦錠平	小松原一男	第60話	午後七時 東京タワー爆発!	田村多津夫	蕪木登喜司	菊池城二
第14話	ボスロボットがやって来た!!	藤川桂介	山吉康夫	森利夫	第38話	ひかる涙のドッキング!	田村多津夫	(石黒昇)	菊池城二	第61話	特攻スパイ大作戦!	上原正三	大谷恒清	森利夫
第15話	遥かなる母への手紙	上原正三	笠井由勝	森下圭介				宮崎一哉		第62話	戦慄! 白鳥が来た日	馬嶋満	(生瀬昭憲)	菊池城二
第16話	ここにひびく愛の鐘	安藤豊弘	川田武範	青鉢芳信	第39話	奇襲! ベガ星突撃隊	馬嶋満	川田武範	森利夫			蕪木登喜司		
第17話	小さな生命(いのち)を救え!	藤川桂介	大谷恒清	荒木伸吾	第40話	激突! 炎の海原	田村多津夫	葛西治	荒木伸吾	第63話	雪に消えた少女 キリカ	馬嶋満	勝間田具治	荒木伸吾
第18話	発進!! 秘密ルート7	上原正三	勝間田具治	小松原一男	第41話	マリンスペイザー 出動せよ!	田村多津夫	大谷恒清	青鉢芳信	第64話	東京全滅五分前!	馬嶋満	小湊洋市	森利夫
第19話	恐怖のエアロライト!	田村多津夫	茂野一清	森利夫	第42話	危機! 研究所よ立ち上げ!	馬嶋満	松浦錠平	森利夫	第65話	兜甲児一本勝負!	田村多津夫	(明比正行)	菊池城二
第20話	決死の雪山脱出作戦	上原正三	小湊洋市	荒木伸吾	第43話	隕石落下! 謎の孤島	馬嶋満	(蕪木登喜司)	菊池城二			蕪木登喜司		
第21話	決戦! オーロラの輝き	安藤豊弘	(小湊洋市)	菊池城二				宮崎一哉		第66話	死の海底400M(メートル)!	上原正三	蕪木登喜司	菊池城二
			田宮武		第44話	祭りの夜 円盤獣が来る!	田村多津夫	設楽博	荒木伸吾	第67話	決死の海底基地爆破	上原正三	川田武範	森利夫
第22話	花一輪の勇氣	馬嶋満	落合正宗	青鉢芳信	第45話	燃えろ! ドリルスぺイザー	馬嶋満	葛西治	森利夫	第68話	吹雪の中のマリア	田村多津夫	森下孝三	荒木伸吾
第23話	激流に叫ぶひかる	上原正三	川田武範	森利夫	第46話	空からサメが降って来た!!	馬嶋満	松浦錠平	青鉢芳信	第69話	父に捧げる 愛のオーロラ	馬嶋満	大谷恒清	森利夫
第24話	危うしデュークフリード!	田村多津夫	大谷恒清	森下圭介	第47話	湖が地獄の火を吐いた!	田村多津夫	蕪木登喜司	菊池城二	第70話	涙は胸の奥深く	馬嶋満	明比正行	菊池城二
第25話	大空に輝く愛の花	馬嶋満	勝間田具治	荒木伸吾	第48話	地の底に悪魔がいた!	馬嶋満	川田武範	森利夫	第71話	悲劇の親衛隊長モルス	田村多津夫	小湊洋市	青鉢芳信
					第49話	赤い夕陽に兄を見た!	田村多津夫	(勝間田具治)	菊池城二	第72話	はるかなる故里の星	馬嶋満	勝間田具治	荒木伸吾
							蕪木登喜司		堀川留子	第73話	この美しい地球のために	田村多津夫	明比正行	白土武
					第50話	暗殺!! 兜甲児を消せ	田村多津夫	大谷恒清	荒木伸吾	第74話	永遠(とわ)に輝け! 二つの星	田村多津夫	川田武範	森利夫

UFOロボ グレンダイザー

10周年

【日本以外での放送】

本作は世界各国で放送されており、特にヨーロッパと中東での人気は「日本人の想像をはるかに超えている」と指摘されている。

フランス

1978年7月3日から1979年1月18日まで『Goldorak (ゴルドラック)』と改題されて、国営第二テレビ局「Antenne 2 (アンテンヌ・ドゥ)」で

放送された。視聴率は平均75%、最高100%であった。ただしこれは時間帯による占有率であり、世代別の集計(子供のみ)であること、テレビ局がAntenne 2以外に、TF 1とFR 3しかなかったこと、裏番組との兼ね合い等の条件が重なった結果であった。Antenne 2での放送終了後は同局や、TF 1やLa 5 (廃業)などの他のテレビ局でも再放送がされた。大衆誌であるパリ・マッチ誌の1979年1月19日号にて、『ゴルドラック』の視聴率が100%を記録しキャラクターグッズが大ヒットしたことが取り上げられ、同号の表紙も『ゴルドラック』が飾った。テレビ放送前に劇場公開された総集編の主題歌『Goldorak le grand (ゴルドラック・偉大なる者)』(当時13歳の歌手、Noam Kaniellによるシャンソン風の歌)はフランス国内で異例の100万枚を超える大ヒットとなった。またフランスにおける本作の人気の過熱の結果、日本では発売されなかった敵役の人形なども発売された。他にも当時、日本の鉄鋼業界の経営陣らがフランスを訪問した際には「日本の鉄」に敬意を表し、会場に巨大なグレンダイザー像が飾られたが、日本側は『グレンダイザー』を視聴していた人が皆無に等しかったため、会場ではほとんど注目されなかったというテンプレート。

イタリア

1978年4月から1979年1月12日まで『Atlas Ufo Robot (アトラスUFOロボット)』と改題されて国営第二テレビ局「RAI 2 (ライ・ドゥエ)」で放送され、最高視聴率80%以上を記録している。放送終了後は同局にて再放送がされた。

イラク

1982年から夕方六時に放送され、放送時間になるとイラク中の路地から子供たちの姿が消えたというほどの人気を博した。宗派や民族をめぐって争いの絶えないイラクで、国民が唯一ともに共感し一致できる話題は、「サッカーかグレンダイザーしかない」という冗談までであるという。

アメリカ

1980年9月から半年間、グレンダイザーを含め日本製アニメ番組5作品を『フォースファイブ』として日替わりで放送した。全作品とも26話分のみでの放送で、既に玩具のショウゲンシリーズのブームは過ぎ去っていたため、あまり人気は出ず、放送もごく一部の地域でのみであった。

出典: マジンガーZ Wiki

- ・原作 - 永井豪とダイナミックプロ
- ・チーフディレクター - 勝間田具治
- ・キャラクターデザイン - 小松原一男、荒木伸吾
- ・企画 - 春日東、別所孝治、勝田稔男
- ・製作担当 - 佐伯雅久→宮崎一哉
- ・制作 - 東映動画、旭通信社

2021.11.09

【スタッフ】

これまでは横山賢二率いるスタッフがマジンガーシリーズの『マジンガーZ』次いで『グレートマジンガー』を、続いて勝田稔男率いるスタッフがゲッターシリーズの『ゲッターロボ』次いで『ゲッターロボG』を担当してきた。しかし『グレンダイザー』に加えて、マグネロボシリーズの『鋼鉄ジーグ』も同時開始となる1975年10月5日放映分より、東映動画で制作体制の再編成が行われた。横山班は『鋼鉄ジーグ』から始まるマグネロボシリーズに移動となった。このため『ジーグ』は『Z』『グレート』の戦闘を重視したハードな空気や、渡辺宙明と水木一郎による音楽など、細かい部分で横山班の作風が受け継がれている(ただしマグネロボシリーズ3作目『超人戦隊バラタック』はスタッフの一部や路線が変更され、ハードさは消えた)。勝田班は二班に増強、『ゲッターロボG』と共に、『グレートマジンガー』の後番組『グレンダイザー』も担当した。このため『グレンダイザー』はマジンガーシリーズ3作目でありながら、『ゲッター』『ゲッターG』のドラマを重視した空気や、菊池俊輔とささきいさおによる音楽など、細かい部分で勝田班の作風が受け継がれている。なお勝田班による東映動画のアニメ放映枠のうち、『ゲッターロボG』側は次回作『大空魔竜ガイキング』までロボットアニメが続き、その後も『パタリロ!』まで同じ時間帯が続いたが、徐々にスタッフが入れ替わっていった。『グレンダイザー』側は次回作『惑星ロボ ダンガードA』までロボットアニメが続き、その後も『円卓の騎士物語 燃えるアーサー』まで比較的同じスタッフで続いた。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

<https://majingai.x.fc2.com>